

雅ねえの、みんなで取り組む

獣害対策講座 Vol.11

※タイトルに記載している『雅ねえ』の表記は、本人の原稿どおりで掲載の了承を得ています。

夕方、日の沈むのが遅くなってきてついつい畑にいる時間伸びてきた。春の予感ね。獣害対策も頑張ろう！

おさらいと予習

前回

柵をしても防げないっていうのは、動物に「ここはあんたたちの来るところじゃないし、来ても餌にはありつけないよ」ってメッセージが伝わらない失敗の柵ということ、メッセージをキーワードにした話をしたよね。

そして少しだけ、大崎町の曲集落で始めた獣害対策の現場実習のことも紹介した。

今回

今回は、その曲集落で何をやるうとしてなのか、私の思いもこめてお話をね。

目標は獣害対策じゃなくて、結局はみんないきいき元気な集落づくり、便利じゃないけど楽しい、高齢者が多いけどみんな気持ちは若い、毎日どこかで小さな助け合いがあって、時にはみんな集まって大爆笑。そんな集落が目標。そしてそんな集落活性化

のきっかけとして有効なのが獣害対策。

何でも聞いたり教えたり集落

何度も紹介してる島根県美郷町の婦人会のおばちゃんたち。ホントに物忘れひどい人たちがばかり。

「なんで言われたことそんなに簡単に忘れるの！」って言ったら

「忘れとるんやない、最初から覚えられんだけ」

大笑いするしかない。けれど獣害に強いのは、何でも聞いたり教えたり集落だからなのね。

「んじや、もう一回聞けどな、獣害に強い菜園にしようと思ったらカキの枝は柵から何センチ離して剪定する？」

おばちゃんA「えーっと、今ある枝に果実がつく果樹は柵から1メートル、今ある枝の芽からもう一回枝がのびてそれに果実がつく果樹は1メートル50センチ」

おばちゃんB「カキはどっちやったかなあ？」

おばちゃんC「ウメは今ある枝に花が咲いて実がつくから

今ある枝が結果枝、芽から枝がでてそれに実がつくお母さんの枝が結果母枝。それでウメとカキは違う言うとしたから、カキは今ある枝が結果母枝や」

おばちゃんA「そうやってたら、カキは1メートル50センチ柵から離さんといかん」

こんな風に何とか正解をひきづり出しちゃう。

模擬試験

あのね、遠い昔、学生時代を思い出してみて。

中間試験、期末試験、模擬試験、入学試験に卒業試験、入社試験にいろんな資格試験って試験に追われた日々。そういう試験卒業しちゃってからは、せいぜい運転免許の試験(落とすためじゃなくて通すためのゆるい試験)くらい。

人生で節目節目に試験がないってことは緊張感に欠ける日々をぼーっと送ってるってことでしょ。

ぼーっとしてるから、イノシシやシカを自分で餌付けし得ることにも気が付かない。だから今回は、ぼーっとした日常に緊張感を呼び覚まし、

あなたに活をいれるための模擬試験やるね。この模擬試験は、高齢者の免許更新のための脳活性化にも有効(あくまでも個人の感想)。

問題(現国：長文読解力)

以下は雅ねえが昨年、大崎町曲集落の電気柵設置実習で述べた講義内容です。文章をよく読んだのち、質問に答えなさい。

出題文章

「今回は実際に山下さんの畑で電気柵を設置する練習をします。皆さんは柵さえ設置すれば効くと思ってるかもしれませんが、それは間違いです。

理にかなった柵以外はすべて逆効果の、餌付け柵、かえって動物を寄せる柵になります。

電気柵は、触らせて感電させることで動物を撃退する仕組みですから、電気が通ってなくては逆効果です。

電気柵の使い方の基本中の基本を二つ覚えて下さい。

一つは電圧。4000ボルト以上で初めて電柵です。二番目は常時通電。電柵は